

「竹島問題・天皇陛下侮辱発言について」

● n a o p p i さんからの質問

竹島不法上陸と天皇陛下への侮辱発言をどう思われますか？

●西田昌司の答え

韓国は民主党政権に対してなめた態度で接していますが、竹島問題に関しては自民党にも大きな責任があります。自民党の問題であり、「自分の国は自分で守る」という気概を忘れた戦後日本の問題です。大東亜戦争が終わった後、昭和27年4月28日にサンフランシスコ講和条約が発効されて日本は独立を果たしました。この独立の直前に、当時の韓国大統領・李承晩が「竹島は韓国の領土だ」と主張しました。李承晩ラインと呼ばれる軍事境界線を独断で設定し、韓国側海域での日本人の漁業を認めず、4000人近い日本人漁民が抑留され、死傷者も出ました。しかし、竹島が日本の領土であることは間違いのない事実であり、日本は韓国に対して抗議を続けていますが、韓国は竹島に人を常駐させてヘリポート等を建設し、日本は韓国の実効支配を事実上許してしまっています。

自民党から民主党に政権交代してから、民主党政権の韓国や中国におもねる姿勢が目につきます。これまで自民党は日米二国間に外交基軸を置く日米安保体制でやってきましたが、民主党は日米中正三角形論に見られるがごとく、アメリカ重視からアジア重視に軸足を移すとの考えから、近隣諸国と対立している部分には目をつぶって穏便に済まそうとする姿勢を示しています。この姿勢に付け込んで、中国は尖閣、韓国は竹島に対する領土的野心を剥き出しにしてきました。

韓国の場合、政権が変わるたびに元大統領が逮捕されたり暗殺されたりと

大変なことが起こります。李明博現大統領にしても、自身の身の安全を図る為に、愛国大統領だということを大いに示したかった、という政治的判断もあったのでしょう。また、日本叩きをすることで、選挙の際に自身の陣営の票を伸ばそうという計算もあったのかもしれませんが、何れにしても、今回の李明博大統領の竹島上陸と天皇陛下への侮辱発言は、民主党の近隣諸国におもねる姿勢が招いたのだと思います。

孫崎享氏が書かれた「戦後史の正体」という本に、「日本は戦後、ずっとアメリカの占領体制の延長線上でやってきたが、民主党政権になってからはアメリカからの独立路線に転換した」との解説がされていますが、これには賛同できません（これ以外の部分には、なるほどと頷けることも多いのですが）。日米基軸を見直して、アジアを重視することに関して私は否定しません。しかし、日米基軸であろうがアジア重視であろうが、「自分の国は自分で守る」という自主防衛の精神がなければなりません。民主党はこの精神を欠いたままアジア重視だと言った結果、外患誘致をしてしまいました。自民党も自主防衛が出来ていませんでしたが、日米基軸を掲げていたことで他国への抑止力になっていた面があったのだと思います。

そのうちに自民党は政権奪還するでしょうが、自民党も反省をせねばならないことが沢山あります。「自分の国は自分で守る」という気概を前面に打ち出して、韓国や中国と交渉しないと問題は解決しません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>